被災地方言の記録と保存

田附敏尚/川越めぐみ(東北大学大学院文学研究科専門研究員) 椎名渉子/内間早俊/佐藤亜実(東北大学大学院文学研究科大学院生)

目的

- Ⅰ 被災地の方言を取り扱った文献・資料の収集・整理 ⇒ 文献目録の作成
- Ⅱ 目録をもとに被災地の方言研究の現状を把握 ⇒ 今後の研究活動についての提案

被災地方言研究文献目録の作成(目的 I)

調査資料

- 方言文献目録、年鑑
- 市町村史
- ・学術文献データベース

など

調査場所

- 東北大学附属図書館
- 国立国語研究所図書館
- · 国立国会図書館
- ・インターネット など

書籍・論文等約700件を収集

研究手法 • 対象分類

《記述的研究》《地理的分布》《世代差》 《グロットグラム》《共通語化》

内容分類

音声;(音声、音韻、アクセント、イントネーション、その他)

語彙;(意味・用法、その他)

方言集

文法:(文法概説、助詞、活用、ボイス、テンス・アスペクト、

条件表現、文末形式・文末表現、その他)

言語行動;(談話分析、表現など) 待遇表現;(敬語、その他)

談話資料

その他;(方言意識など)

分野別に集計

表 1 被災地域の研究概要								
分野県	音声	語 彙	方言集	文法	言語行動	待遇表現	談話資料	その他
青森	34	37	28	34	0	9	3	18
岩手	49	31	31	33	8	13	7	18
宮城	61	48	81	48	18	10	8	17
福島	37	30	42	29	1	14	1	29
茨城	9	23	14	7	1	1	4	5
千葉	16	40	47	19	1	2	6	5

文献目録例:

宮城県文献リスト(論文)

No. 著名 発行 接数名 接数名 接数名 1 研享主人 1899 東京仙台方言くらべ拾遺 風俗画報471 万言 14 小林英夫 1932 仙台方言 日本語学18-13 1932 1934 宮城方言文法の一斑 国語研究2-4 1934 宮城方言文法の一斑 国語研究2-4 1955 仙台ことば 宮城県北部におけるアクセントの一側面―語単独の相との違いに関して一 2006 東北地方の方言調 報告(東北大学)別巻音の相との違いに関して一 2006 東北大学に発展 1982 宮城県北地方の方言調 日本文化研究所研究 1982 宮城県北地方の方言調 日本文化研究所研究 1985 日本文化研究所研究 1985 日本文化研究所研究 1987 日本文化研究所研究 1987 日本文化研究所研究 1987 日本文化研究所研究 1987 日本文化研究所研究 1987 日本文化研究所研究 1987 日本主教授 日本文化研究所研究 1987 日本主教授 日本主教授 1987 日本主教授 日本語学18-13 101 玉懸元 2006 東北地方の地域方言と 129 作田将三郎 2006 東北地方における(本) 文化69-3・4(東北大学文学会) 2007 宮城県・岩手県三陸が南部地域方言の研究(東北大学の研究(東北大学国語) 148 中華に深村美田 2012 第十の地域方言の研究(東北大学国語) 2012 宮城県・岩手県三陸が南部地域方言の研究(東北大学国語) 2012 宮城県・岩手県三陸が南部地域方言の研究(東北大学国語) 2012 宮城県・岩手県三陸 2012 宮城県・岩井県三陸 2012 宮城県・北大学国・2012 2012 宮城県・北大学国・2012 2012	宮城県文献リスト(論文)									
6 蘆の円屋 1915 仙台方言 風俗画報471 14 小林英夫 1932 仙台方言音韻論試作 方言2-11 17 菊沢季生 1934 宮城方言文法の一斑 国語研究2-4 36 横山原次 1955 仙台ことば 言語生活51 50 佐藤亮一 1968 宮城県北部におけるアクセントの一側面一語単独の相と助源を付けたときの相との違いに関して一 型和7 60 加藤正信:佐藤和之:小林隆 1982 宮城県北地方の方言調査報告、東信、東北大学)別巻19 国学院大学図書館蔵「奥信・鬼・水・ス・マ・ス・ア・ス・ア・ス・ア・ス・ア・ス・ア・ス・ア・ス・ア・ス・ア・ス・ア	頁数	頁数	地域	内容	注					
14 小林英夫 1932 仙台方言音韻論試作 方言2-11 17 菊沢季生 1934 宮城方言文法の一斑 国語研究2-4 36 横山原次 1955 仙台ことば 言語生活51 50 佐藤亮一 1968 宮城県北部におけるアクセントの一側面一語単独の相と助詞を付けたときの相との違いに関して一 聖和7 60 加藤正信:佐藤和之:小林隆 1982 宮城県北地方の方言調査報告、東北大学)別巻 19 61 齋藤友季子 1985 州仙台こと葉いろは奇」について考察と翻刻 宮学は 1987 について考察と翻刻 宮学は 1987 宮語者におけるイントネーションとフォーカス 東北方言における/ド/の 東北方言における/ド/の 東北方言における/ド/の 1997 東北方言と 日本語学18-13	12-13	12-13	仙台市	《記述的研究》方言集						
17	31	31	仙台市	《記述的研究》方言集						
17	13-58	13-58	仙台市	《記述的研究》音声(音韻)						
50 佐藤亮一 1968 宮城県北部におけるアクセントの一側面一語単独型和7の出と助詞を付けたときの相との違いに関して一個音楽化研究所研究を報告、東北大学)別巻音報告 60 加藤正信: 佐藤和之: 小林隆 1982 宮城県北地方の方言調量を報告、東州仙台にと葉いろは寄」を開始して、大学の書館蔵「東州仙台にと葉いろは寄」について考察と翻刻を変容する日本の方言・自行市住民意識に見る方言志向・共通語志向は合無型アクセント方言を指令に対けるイントネータンとフォーカスを記するでは、中央地理的・年代的諸相と展開・バーチ音とが研音との関連性に発音して 国語学研究(東北大学)36 77 大橋純一 1997 話者におけるイントネータの関連性に発音して 言語科学論集(東北所) イナイントネータの関連性に発音して 84 半沢康 1999 東北方言における/ki/の計算との関連性に発音して 84 半沢康 1999 東北方言に対ける/ki/の計算・大学)1 101 五懸元 2001 宮城県仙台市方言の終期間「パータ・マリの用法学の地方音の終期間「パータ・マリの用法学の地方音の地方音の地方音となった。大学の地方南部地域方言のが地方音が表現ませた。大学の表現を表現されている。大学文学会)を対象を表現を表現されている。 マル689-3・4(東北大学文学会) 148 小林隆・澤村美幸 2012 驚きの感動詞「パータ・マリの・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア	60-91	60-91	石巻市、牡鹿郡、亘理町(荒浜村)、仙台市	《記述的研究》文法(文法概説)	「浜荻」や「方言達用集」、 方言調査報告、地誌等の記述を筆者が概略的にまとめ たもの。					
50 佐藤亮一 1968 セントの一側面一語単独 の相と助詞を付けたときの相との違いに関して一 60 加藤正信: 佐藤和之: 小林隆 1982 宮城県北地方の方言調 日本文化研究所研究 報告(東北大学)別巻 報告(東北大学)別巻 19 61 齋藤友季子 1985	74-75	74-75	仙台市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	仙台市で使われている語 を、東北方言、特に山形県 置賜地方の方言と比較した もの。					
60 加藤止信:伝腰 和之:小林隆 1982 宮城県北地方のカ言調 報告(東北大学)別巻 1982 宮城県北地方のカ言調 国学院雑誌86-7 について考察と翻刻 国学院雑誌86-7 について考察と翻刻 変容する日本の方言・価 台市 住民意識に見る方言志向・共通語志向 (日本 日本 日	69-95	69-95	気仙沼市(気仙 沼市、本吉 町)、南三陸町 (志津川町)、 石巻市(河北 町、北上町)、東 東松島市(天本 町)、松島町、 仙台市	《地理的分布》音声(アクセント)	気仙沼市(字九条、字岩月 合の沢)、本吉都本吉町(大 沢、小浜)、本吉都本吉町、 登米郡東和町、登米郡登新 河北町、桃生郡北上町、登 米郡追町、栗原郡金成町、 栗原郡名桐町、栗原郡金成町、 栗原郡名桐町、栗原郡北 東原郡・加美郡・町 、株生郡・田町、 、株生郡・田町、 、株生郡・田町、 、株生郡・田町、 、株生郡・大郡、 、田川郡・ 田川郡・ 田川郡・ 田川郡・ 田川郡・ 田川郡・ 田川郡・ 田川郡・					
61 齋藤友季子 1985 州仙台こと葉いろは寄」 国学院雑誌86-7 1971 1972 1973 1974 1975 1974 1975 19		左1-28	石巻市(北上町、雄勝町、牡 町、雄勝町、牡 鹿町、河北町)、東松島市 (鳴瀬町)	《記述的研究》音声(音韻)/語彙(意味·用法) /文法(助詞/文末形式·文末表現)/待遇表現 (敬語)	宮城県北地方20地点(桃生郡、牡鹿郡、登米郡、本吉郡、遠田郡、栗原郡、志田郡、王造郡、加美郡のなかで20地点)					
71 小林隆	17-35	17-35	仙台市	《記述的研究》方言集/その他(異本比較)	小倉本・叢書本・國學院大 學所蔵本を比較し、校異を 示している。翻刻もなされて いる。					
1997 話者におけるイントネー 国語学が外に東北大学36	34-46	34-46	仙台市	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》その他 (方言意識)						
1997 地理的・年代的諸相と展 言語科学論集(東北	左13-21	左13-21	仙台市	《記述的研究》音声(イントネーション)/言語行動(談話分析)						
148 1999 社会方言 日本語学18-13 日本語学18	15-26	15-26	山元町	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》《グロットグラム》音声(音声/音韻)						
129 作田将三郎 2006 東北地方における〈雷〉 文化69-3・4(東北大	176-184	176-184	亘理町、山元 町、岩沼市、名 取市、仙台市	《グロットグラム》音声(音韻)/文法(テンス・ア スペクト/文末表現・文末形式/助詞/その他)	宮城県北部から福島県いれき市にかけてのグロットグラムや、福島県・宮城県のグロットグラムを用いて方言変化の様子をみたもの。亘理町(逢隈、浜吉田)、山元町(上平、中浜、磯浜)、岩沼市に岩沼)、名取市(名取)、仙台市(南仙台、仙台、泉)					
129 作出将二郎 2006 の地方語史 学文学会 空城県・岩手県三陸 地方南部地域方言の 研究(東北大学国語 研究(東北大学国語	30-43	30-43	仙台市	《記述的研究》文法(文末形式・文末表現)						
148 小林隆·澤村美 幸 2012 驚きの感動詞「バ」 地方南部地域方言の 研究(東北大学国語	左58-77	左58-77	気仙沼市、南三 陸町、石巻市、 松島町、仙台 市、名取市	《記述的研究》《地理的分布》語彙(その他(語 史))						
学研究室)	165-188	165-188		《記述的研究》語彙(その他(感動詞))	気仙沼市(唐桑・鹿折・気仙沼・大島・本吉郡本吉町) 南三陸町(本吉郡南三陸 町)・石巻市におけるアバ系 感動詞の分布にも少し触れ ている。					

◆被災地方言研究文献目録掲載ウェブサイト

東北大学方言研究センター (2012) 『文化庁委託事業報告書:東日本大震災において 危機的な状況が危惧される方言の実態に関する予備調査研究』東北大学国語学研究室 (http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kokugo_sisaku/kikigengo/index.html 報告書第 I 部 東日本大震災の中の方言)

①各県の研究分野別特徴

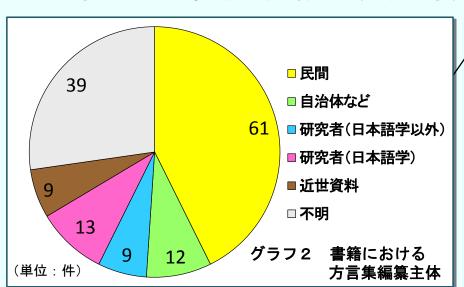
青森~福島

音声・語彙・方言集・文法の 分野に比べて言語行動・待遇 表現・談話資料の分野が少ない

茨城・千葉

言語行動・待遇表現・談話資料は 同様に少なく、青森~福島に 比べると音声や文法も少ない

地元主導による方言集の編纂と研究者の役割



方言集 筆者・編者は主に 研究者以外の民間の方々 自治体や市町村、教育委員会など

⇒<u>方言への関心が高い地元の人の手によって編まれたものが多い</u>

地元主導による方言に関する取り組み

□ 地元の取り組みを把握 補える点をフォロー

利用価値、保存価値の高い研究成果

研究の概要と課題 (目的 II)

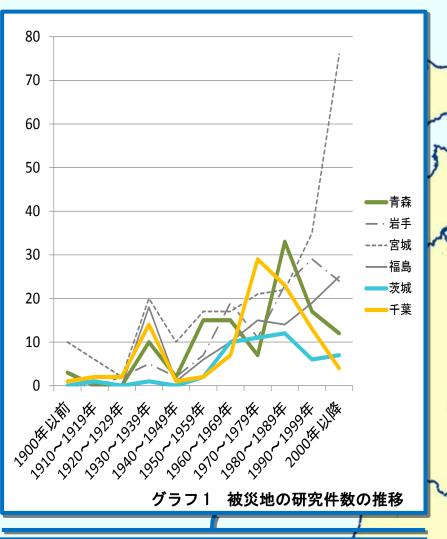


表 2 岩手、宮城、福島三県の研究状況

岩手県		宮城県		福島県		
洋野町	18	気仙沼市	42	新地町	6	
久慈市	22	南三陸町	18	相馬市	20	
野田村	11	石巻市	45	南相馬市	24	
普代村	10	女川町	7	伊達市	12	
田野畑村	9	東松島市	9	飯舘村	3	
岩泉町	12	松島町	11	川俣町	4	
宮古市	34	利府町	8	浪江町	10	
山田町	22	塩竈市	6	双葉町	7	
大槌町	18	七ヶ浜町	1	大熊町	6	
釜石市	19	多賀城市	8	富岡町	8	
大船渡市	28	仙台市	116	楢葉町	8 5 3	
陸前高田市	17	名取市	8	葛尾村	3	
		岩沼市	4	川内村	1	
		亘理町	11	広野町	4	
		山元町	10	田村市	8	
				いわき市	27	

岩手県:野田村、普代村、田里

岩手県:野田村、普代村、田野畑村、岩泉町の 研究が久慈市、宮古市、大船渡市など

③同一県内の地域的な研究の偏向

に比して少ない

宮城県:仙台市と石巻市の間にある市町村、

仙台以南の研究が少ない 福島県:特に双葉郡の研究が少ない

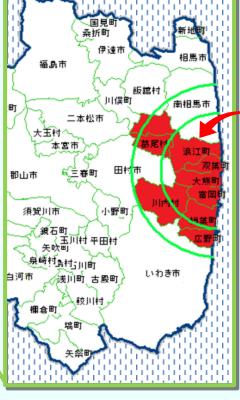
②年代ごとの研究件数推移

・岩手県、宮城県、福島県⇒増加傾向 (2000 年以降の研究蓄積も多い)

・青森県、茨城県、千葉県⇒減少傾向(1970,80年代をピークに近年の研究が少なくなっている)

研究の継続性という観点から

問題あり



福島県双葉郡の例

地理的調査やグロットグラム 調査が多く、基礎的な記述研究 はきわめて少ない

相馬方言、いわき方言の 境界に位置する当該地域は 基礎的な研究も必要な地域

\$5 C.

災害により地域住民が各地に避難 ↓ 当該地域方言が継承されない恐れも

課題

年代的・地域的な研究の偏りを 減らす取り組みを早急に行う

今できること

話者に負担をかけない調査

自然談話資料の収集

方言をありのまま記録する という点からも重要